

幼稚園組1期生&1.5期生～ もうすぐ高校3年生です



修武館が初めて就学前の児童を受け入れたのは、11年前です。お兄ちゃん、お姉ちゃんが先に剣道を始め、保護者の希望で(本人たちの希望であったかどうかについては、今となってはわかりません?)年長組であった5名が入館を許可されました。ただし、当時は小学校1年生からの受け入れでしたので、森本くん、森本さん、溝口さん、あと数ヶ月足りませんでした。坂本くんの4名が入学年齢に達している7月から稽古を始め、そのあと1月から福森くんが入館、一緒に稽古を始めました。

まさに、10年一昔。福森くんは、残念ながら参加できませんでしたが、2日後には高校3年生になる4名の第1期生と小学1年生の4月に入館した第1.5期生堀谷くんの5名に集ってもらい、ピザを食べながら当時の思い出話を聞きました。

当時は、少年部の稽古時間です。準備体操及び素振りを終えたあと、ひとりの先生が幼稚園組を教えてくださいました。ただし、「幼稚園組専属」ではなく初心者組と一緒に稽古したので、新しく入館してくるたびに「礼法」から教わります。またか…と、いつもうんざりした気分になっていたと思いを話してくれました。

現在の幼稚園組は年少から受入れています。が、どんなにしっかり基本ができていても小学校に上がるまでは防具の着用は許可しません。防具着用までの数年間、ながく続けるための基本をきちんと身に付けながらも飽きさせず、剣道が生活の一部であると思えるように、楽しみながら稽古ができる幼稚園児の為のプログラム作りが必要であると思いました。また、子どもを叱るときに竹刀で叩く(良くないですが)ケースがありますが、子どもはそんな時どう思っているのでしょうか。嫌な思い出として残っているのでは…?と懸念していましたが、意外にも、「覚えていない」ということと、中には「いつ

か見返すぞ!」と、闘争心むき出し(?)の幼稚園児がいたことを知ってびっくりしました。小さくても私たちと同じような感情を抱いているのです。

「覚えていない」子ども達だからこうして集まってくれるのだらうと思います。「覚えている」子ども達もきっといるはず。子ども達も大人と同じ感情を抱きます。小さくても一人の人間として真摯に向き合わなければならないと思いました。あつという間の楽しい時間でしたが、将来の夢やこれからの剣道への取り組みについてたくさん聞くことができました。幼稚園児への取り組みに反映していきたいと思います。また、お話を聞かせてくださいね。
(事務局 溝口 理嘉子)





『剣道を通して学んだこと』

甲陽学院高等学校
福森 一真（幼稚園年長1月入館）

僕が修武館にお世話になったのは年長の終わりでした。家が近かったし、叔父が習っていたので見学に行き決めました。

道場と稽古は好きでしたが、試合は嫌いでした。4年生の夏くらいに中学受験したいと思ったので、塾にいきたいと言ったら剣道が続ける条件で週1回だけ行かせてくれました。6年生になって1級審査合格後、ちゃんと塾に行く許可が出ました。その時は、普通の親は剣道を辞めて塾に行かすものだろうと思ったけれど、中学入学後、意味がわかりました。

入学式当日、剣道部に入ることを決めて、次の日防具を持って行きました。今から思うと、総体前で忙しい時期に小さい1年が早々入ってきて邪魔だったと思いますが先生も先輩も本当に優しく歓迎してくれました。

部活は道場と違い、練習スケジュールも中3が自分たちで決め、部長も自分たちで投票して決め、どんなに遠くの試合会場でも防具を持って始発を調べて行きました。中1～2くらいはすごくきつく感じましたが中3くらいになるとだいぶ体力と精神力がついたと思います。

高校は、中学と比ではないくらい厳しいと聞いていたので皆おそれていましたが、高1は確かにきつかったですが、高2にはなんとかやっていけました。

高3になり引退した今思うことは、小学校

の時、道場でいい環境で剣道ができたことが全てのスタートで、中学高校と剣道部で恩師や先輩、仲間と出会えました。でも、小学校までは子どもで道場も塾も全てが何も深く考えずに与えられたものをしていたと思います。今は、その全ての礎を作ってくださった修武館の安倍先生をはじめ諸先生方、自立することを教えてくださった中学顧問の藤田先生、厳しくそして信頼してくれた高校顧問の上島先生、先輩、同級生、皆に感謝したい。今後は剣道が続けるかはまだ決めていないけれど、自分の新たな夢に向かって頑張りたいです。

そして、最後に。小学校5年生の時に興味を持って、中1から無理を言って修武館で居合道もさせてもらいました。最初は身長も低く、刀も短かったし、子ども相手に大変だったと思います。高校の部活が忙しくなり、稽古に行けなくて申し訳ない気持ちでいっぱいですが、近藤先生、磯崎先生をはじめ、お世話になった先生方、本当にありがとうございます。また顔を出します。

